さとみ・あいチーム　XCCチーム　水戸交通屋さんチーム

IBARAKI UNIVERSITY

茨城大学人文社会科学部PBL授業
プロジェクト演習

2018 活動報告会

ACTIVITY REPORT MEETING

こみフェスチーム　sucSeedチーム　とみ咲クチーム

2018年度のテーマは **学外への発信**

人文社会科学部の専門科目「プロジェクト演習」は、受講生が地域の中でプロジェクトに取り組むことを通じて、社会人基礎力を身につけることを目的に開講されている PBL（Project Based Learning）科目です。2018 年度の報告会では、学生・生徒の活動報告に加えて、今春のホームページならびにフェイスブック立ち上げを踏まえて「学外への発信」について考えてみたいと思います。

http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/

茨城大学人文社会科学部地域志向教育プログラム

地域志向教育プログラム WEBサイト

日時　平成30年12月15日（土）

時間　13:00〜16:15（12:10受付開始）
※12:20〜12:50 に、プロジェクト演習受講全 6 チームならびに茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科 食品科学部 生徒による活動報告を、ポスターセッション形式で実施します。

会場　茨城大学 人文社会科学部講義棟10番教室

活動報告会に関するお問い合わせは
029-228-8115 または atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp 鈴木敦まで

2018 12/15（土）

13:00〜16:15
（12:10 受付開始）

0 12:20−12:50
ポスターセッション
プロジェクト演習受講全6チームの活動報告

1 13:00−13:10
開会挨拶 田中 裕（人文社会科学部副学部長・評議員）

2 13:10−13:25
趣旨説明 神田 大吾（プロジェクト演習担当教員）

3 13:25−14:15
プロジェクト演習活動報告第一部
(1)さとみ・あいチーム　(2)XCCチーム
(3)水戸交通屋さんチーム　(4)こみフェスチーム

4 14:15−14:25
休憩（10分）

5 14:25−15:10
プロジェクト演習活動報告第二部
(5)sucSeedチーム　(6)とみ咲クチーム
(7)茨城県立水戸農業高等学校　食品化学科 食品科学部

6 15:10−15:25
プレゼン講評 渡辺 しのぶ（ラシャンス 代表）

7 15:25−16:00
ミニ・トークセッション
「学外への発信手段としてのHP,FB」
山﨑 一希
（元茨城放送プロデューサー、PR代理店勤務　本学広報室専門職）
岩佐 淳一
（地域メディア研究　プロジェクト演習担当教員）
鈴木 敦
（プロジェクト演習設計者　プロジェクト演習担当教員）

8 16:00−16:15
総括と閉会挨拶 内田 聡（人文社会科学部学部長）

主催　茨城大学人文社会科学部　共催　茨城キリスト教大学　後援　水戸市／常陸太田市／福島県 富岡町／Domaine MITO株式会社

2018年度プロジェクト演習　活動報告会

趣旨説明
～学外への発信～

プロジェクト演習担当教員　神田大吾
daigo.kanda.8139@vc.ibaraki.ac.jp

1

お話の流れ

Ⅰ：プロジェクト演習の特徴

Ⅱ：テーマ「学外への発信」

Ⅲ：「何を」、「誰に」、「何のために」・・・

2

プロジェクト演習の特徴

(1)2～4年次生向け専門科目

(2)自ら選択した課題にチームで取り組む
　→Project Based Learning(PBL)

(3)学生が主人公で、教員は伴走者
　→主体的・対話的で深い学び (Active Learning)

(4)3大学＋1高校の連携

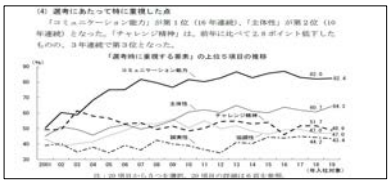
3

PBL授業で養成される能力

- (1)未知の世界に踏み出す チャレンジ精神
- (2)自ら考えて行動する 主体性
- (3)自らの役割を果たす 誠実性
- (4)チームの一員としての 協調性
- (5)誰とでも意思疎通できる コミュニケーション能力

4

期待される五つの能力



日本経済団体連合会「2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果 」より

5

活動報告会のテーマ

- 2012 • プロジェクト実習、3大学連携で始動!
- 2013 • 受講生のコンピテンシー向上
- 2014 • 学外からのご支援の拡大
- 2015 • 授業改善の取り組み
- 2016 • 高大連携
- 2017 • 取り組む・学ぶ・伝える（総合プレゼン講座開設）

6

2018年度：学外への発信

7

プロジェクト演習の情報発信

プログラム Homepage

プログラム Facebook

各チーム SNS

8

学びの場

何を？	•一人の活動？ •チームの活動（準備／実施／振り返り）？
誰に？	•一年生？ •高校生？ •学外の皆さん？
何のために？	•学生は何を学ぶのか？

9

ご清聴ありがとうございました

10

プロジェクト演習　活動報告会　　2018年12月15日

さとみ・あい 今年の歩み

～7年目の挑戦～

1

目次

1. メンバー紹介
2. 常陸太田市 里美地区とは
3. さとみ・あいとは
4. 今年度の活動目的
5. 主な活動内容
（1）10/27　もぐもぐさとみ
（2）11/3・11/4　味覚祭
6. 活動の成果
7. プロジェクトを通しての学び
8. 今後の展望
9. お世話になった方々

2

1. メンバー紹介

人文学部3年　江口　紗姫　北野　友香
塩手菜々美　永田　典子
羽田野里菜
教育学部3年　大村みるほ
人文学部4年　田島　彩花　野村　明里
飯塚子都香
常磐大学2年　久利生秋華　寺元　彰徳

3

2. 常陸太田市 里美地区とは

4

2. 常陸太田市 里美地区とは

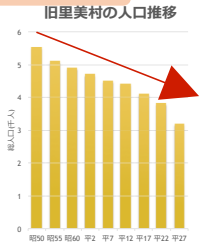
〈主な生産物〉
コメ
野菜
くだもの
乳製品　etc…

5

2. 常陸太田市 里美地区とは

少子高齢化・過疎地域

高齢化率
34.0%
（2015年 常陸太田市）



出典：http://demography.blog.fc2.com/blog-entry-4040.html

6

3. さとみ・あいとは

▶2012年に創立

〈チーム名の由来〉

“あい”

▶里美を愛す、愛される

▶出会い

7

3. さとみ・あいとは

里美地区に活気を！

→里美の魅力を伝えたい
若者を呼び込みたい

→具体的なものでブランディング
イベントの企画運営

8

3. さとみ・あいとは

里川カボチャ：創立時から注目

コメとワラ　　：2年前から注目

9

3. さとみ・あいとは

里川カボチャ

▶在来作物

▶特徴

①ピンク色の皮

②甘さ

③ ほくほく＆滑らかな食感

10

3. さとみ・あいとは

コメとワラ

▶おだかけ

→稲を天日干し（約2週間）
じっくり干すことによりコメのうまみが増す

11

4. 今年度の活動目的

▶昨年度：里美魅力発見バスツアー
→里美の魅力あふれる場所を紹介

▶里美の魅力は場所だけではなく“人”も

12

4. 今年度の活動目的

〈プロジェクトの目的〉

里美の魅力を知ってもらうために・・・

▶イベントを通して、
学生と里美の方々に交流を楽しんでもらう

▶里美の特産物をよそ者である私たちが発信することで、
里美の域外だけでなく域内の方々にも、その魅力をより知ってもらう

13

4. 今年度の活動目的

※思考力
→課題発見能力、計画力
課題解決能力

〈チームの目的〉

▶活動を通して主体性を身につける

▶少子高齢化という課題の解決の一助となるように考えることで思考力を鍛える

▶里美の魅力を発信することを通して
自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける

14

5. 主な活動内容

（1）もぐもぐさとみ

日付：10月27日

参加者：計32名

一般参加学生　12名

里美地区の方々 11名

さとみ・あい　9名

15

（1）もぐもぐさとみ

〈活動内容〉

第1部：有機農家のお手伝い

豆のさや剥き等の農作業

16

（1）もぐもぐさとみ

第2部

昼食：里美地区の食材を使用した料理

トークセッション：

テーマ

・里美での暮らし

・農業

・地域おこし

17

（1）もぐもぐさとみ

▶茨城県青少年育成協会

「若者活動応援事業」

→10万円獲得

主に消耗品費、バス借上代

18

5. 主な活動内容

（2）2018さとみ秋の味覚祭

日付：11月3日、11月4日

場所：里美ふれあい館
イベント広場

19

（2）さとみ 秋の味覚祭

〈活動内容〉

正月飾り、おだかけ米の販売

さとみ・あいの活動紹介

20

6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

〈「成功」の基準〉

（1）もぐもぐさとみ

▶一般参加者の目標人数

学生　15名以上　里美地区の方々　15名以上

▶アンケートの実施

4段階評価で3以上の回答者8割

（2）2018さとみ 秋の味覚祭

▶完売させる

21

6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

（1）もぐもぐさとみ

人数：

▶学生12名

→達成ならず

▶里美地区の方々11名

→達成ならず

22

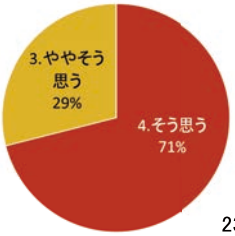
6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

アンケート：

▶里美にまた来たいと思ったか

→3以上8割　達成

（右グラフ参照）



23

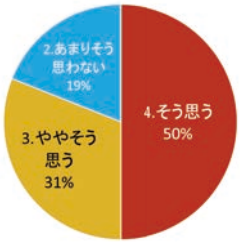
6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

アンケート：

▶このイベントで交流できたと思ったか

→3以上8割　達成

(右グラフ参照)



24

6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

（2）味覚祭

▶正月飾り　7本販売

→達成ならず

▶おだかけ米　3合　46袋

1升　31袋完売

→達成

25

6. 活動の成果（プロジェクトの目的）

〈プロジェクトの目的〉

達成！

里美の魅力を知ってもらうために・・・

▶イベントを通して、
学生と里美の方々に交流を楽しんでもらう

▶里美の特産物をよそ者である私たちが発信することで、
里美の域外だけでなく域内の方々にも、その魅力をより知ってもらう

26

6. 活動の成果（チームの目的）

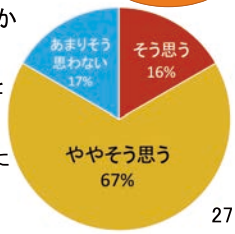
メンバーでアンケート実施

▶主体性が身についたと思うか

〈理由〉

・人数が少ない分、自分がやらなきゃという意識が強くなった

・誰かに負担がかかっているときには、自分が担当になったり、他のメンバーに割り振ったりした



27

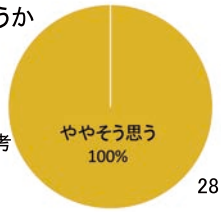
6. 活動の成果（チームの目的）

▶思考力（課題発見能力・計画力・課題解決能力）が鍛えられたと思うか

〈理由〉

・悪い状況になった時のことも想定しておくことの大切さを感じた

・企画を進める中で、自分の意見や企画をより良くするにはどうしたらよいか考えることを常に心がけた



28

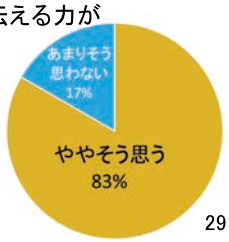
6. 活動の成果（チームの目的）

▶自分の意見を分かりやすく伝える力が身についたと思うか

〈理由〉

・チーム内だけでなく、企画協力者や参加者に自分の意見をわかりやすく伝えるよう試みた

・文章で表す際に、情報を知らない相手にも理解される簡潔な内容になるよう、心がけた



29

6. 活動の成果（チームの目的）

〈チームの目的〉

達成！

▶活動を通して主体性を身につける

▶少子高齢化という課題の解決の一助となるように考えることで思考力を鍛える

▶里美の魅力を発信することを通して
自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける

30

7. 活動を通した学び

▶イベントを企画することの大変さと達成感

▶チームワークの重要性

▶自分自身の弱みへの気づき

31

8. 今後の展望

企画内容

- 里川カボチャの商品開発、PR
- 若者が里美地区へ足を運ぶ機会を継続して創出
- 域外での里美の魅力発信活動

32

8. 今後の展望

広報

- 一人一人の積極的な情報発信
- イベント開催日に対する広報開始時期の検討

33

9. お世話になった方々

さとみ・あいを
知ってくださっている
皆様

34

さとみ・あいのSNS

Facebook:
https://www.facebook.com/satomicafe

Twitter: @satomi_ai_

35

参考・引用文献

▶「茨城県地図｜白地図ぬりぬり」
（2018/12/5閲覧）
https://n.freemap.jp/tp/Ibaraki
▶「常陸太田市の人口推移及び人口増減率」
人口統計データベース（2018/11/19閲覧）
http://demography.blog.fc2.com/blog-entry-4040.html

36

プロジェクト演習活動報告会

異文化交流プロジェクト
大みかマップ作成プロジェクト
活動報告会

茨城キリスト教大学　大内　あかり
齋藤　眞理子
袴塚　梨穂
澤田　香沙美

1

チーム名について

異文化交流

Cross
Culture
Communication

XCCチーム

2

発表の流れ

1.活動動機
2.スローガン
3.異文化交流プロジェクト
4.大みかマップ/Omika Map作成プロジェクト
5.全体を通して学んだこと

3

1.活動動機

「国際化の進展は、人と人との相互理解・相互交流が基本」(文部科学省)

現状①
若年層と外国人の交流機会が少ない

現状②
外国人訪問者と地域住民の交流が少ない

4

1.活動動機

目標①
異文化を持つ人と交流をする機会を設け、若年層の豊かな人間関係の構築をする

異文化交流フォーラム

目標②
大みか町の魅力を発掘し、英語で発信をする

大みかマップ/Omika Map作成

5

2.スローガン

結んで、広げて、
多文化共生の輪

6

3.異文化交流プロジェクト

3-1. プロジェクト概要

イベント企画 → 高校生・留学生招待 → 会場設営 → イベント開催

7

3.異文化交流プロジェクト

3-2. イベントの実施日及び参加者

『異文化交流フォーラム』

日時　平成30年7月16日（月・祝日）

場所　茨城キリスト教大学3号館

参加者　全29名　（うち高校生24名、本学インターン生4人、本学留学生1名）

（茨城キリスト教学園高等学校様、日立北高等学校様、日立第二高等学校様、啓明高等学校様、勝田高等学校様）

8

3.異文化交流プロジェクト

3-3. プログラム内容

アイスブレイク（ジェンガ）

ビンゴ

フリートーク

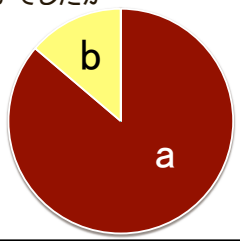
9

3.異文化交流プロジェクト

3-4. アンケート結果

- 調査対象　異文化交流フォーラム参加者　29名

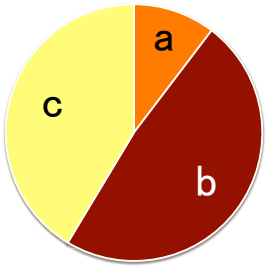
1) 今回参加していかがでしたか



10

3.異文化交流プロジェクト

2) 一番興味深かった企画は何ですか



11

3.異文化交流プロジェクト

3) 自由記入欄の分析

外国人とコミュニケーションをとる恐怖心を払拭できた

英語をもっと学びたいという意識を向上させることができた

ゲーム、フリートークを通じて、積極的にコミュニケーションを交わすことができた

12

4.大みかマップ/Omika Map作成プロジェクト

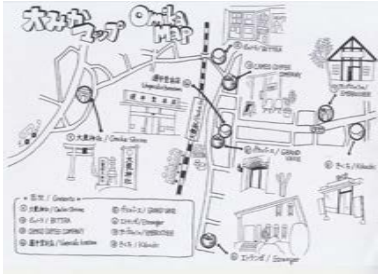
4-1. プロジェクト概要

大みか町散策 → お店の掲載許可取得 → 地図作成

13

4.大みかマップ/Omika Map作成プロジェクト

4-2. 企画内容



14

4.大みかマップ/Omika Map作成プロジェクト

4-3. 引き継ぎと展望

1) より広域のマップ作成
2) マップをお店・大甕駅・日立市の国際交流協会などに配布
3) 地図を使用したイベントの開催

↓

観光客の呼び込み、および、外国人と地域住民の交流の増加

15

5.全体を通して学んだこと

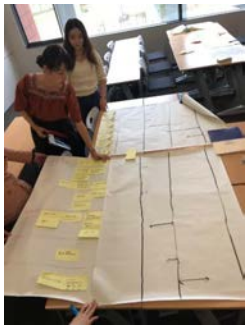
1) 計画を立てることの重要性
おおよその計画しか立てていなかった
→ イベント直前に、余裕のない状態になってしまった
メンバーの仕事量に偏りが出てしまった

改善策

活動計画表の作成
（具体的な活動の内容と活動責任者の決定）
『実施済み』

16

5.全体を通して学んだこと



17

5.全体を通して学んだこと

2) 適切な方法で事前確認をする重要さ
留学生とのコンタクトのが不十分だった
→ 異文化交流フォーラムの留学生参加者が予定10人に対し実際は一人のみだった

改善策

重要案件はFace to Faceで伝える

18

5.全体を通して学んだこと

3) 社会人基礎力の向上

規律性
- メールの作成及び送信
- 活動録の作成

発信力
- 明確に相手に伝えること

柔軟性
- 異なる意見を認識し、受け入れること

*「多様な人々との繋がりや協働を生み出す力」*を高めることができた

経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」より　19

御礼

大川通昭教頭先生をはじめ、茨城キリスト教学園高等学校の皆様

黒澤吹美子先生をはじめ、日立第二高等学校の皆様

長山祐司先生をはじめ、日立北高等学校の皆様

泉澤靖先生をはじめ、水戸啓明高等学校の皆様

柏村裕美子先生をはじめ、勝田高等学校の皆様

茨城キリスト教大学　入試広報部の皆様

茨城キリスト教大学　国際理解センターの皆様

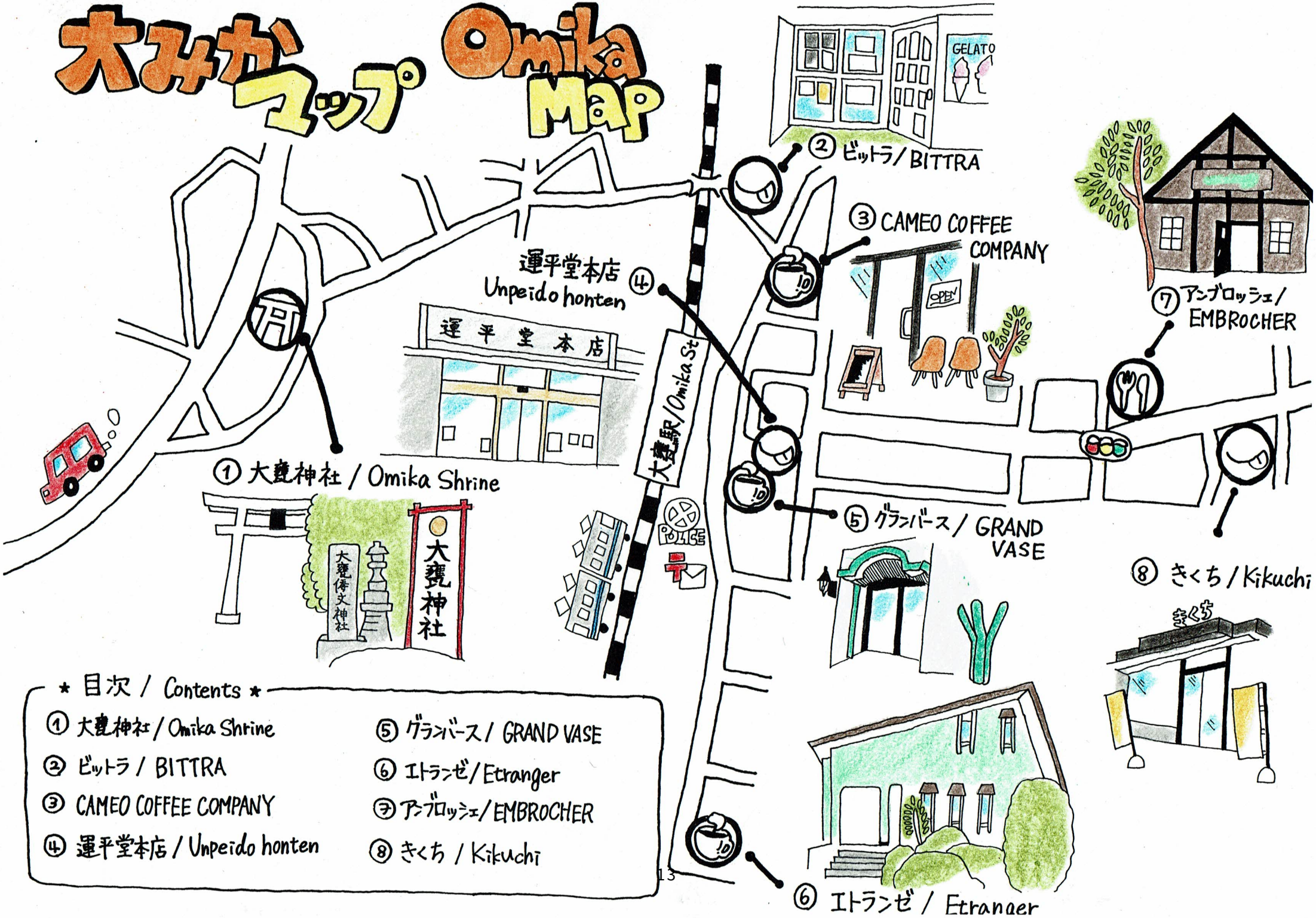
茨城キリスト教大学　留学生の皆様

20

ご清聴ありがとうございました

21

大みかマップ Omika Map



★ 目次 / Contents ★

① 大甕神社 / Omika Shrine
② ビットラ / BITTRA
③ CAMEO COFFEE COMPANY
④ 運平堂本店 / Unpeido honten
⑤ グランバース / GRAND VASE
⑥ エトランゼ / Etranger
⑦ アンブロッシェ / EMBROCHER
⑧ きくち / Kikuchi

プロジェクト演習
活動報告会

～手段から目的へ～への道のり

荒牧瑞稀　粕谷紗雪　佐藤怜璃　志賀有紗

水戸交通屋さん

目次

1.水戸交通屋さんとは
2.チームとしての目的
3.活動報告
4.今後の活動成果の検証
5.学び
6.お世話になっている方々

水戸交通屋さんとは

水戸市市長公室交通政策課
須藤文彦様から

課題　水戸市の公共交通利用促進

構想　運転士の方々と利用者の新たなコミュニケーションから生まれる利用促進

茨大生がツナグ～「手段」から「目的」へ～

チームとしての目的

- 水戸市の公共交通機関を取り巻く環境を理解する
- 茨城交通の運転士の方々との交流を通じて、運転士の方々の魅力を引き出す
- 状況に応じた情報発信の手立てを考える

チームとしての目的　「手段」

- 水戸市役所交通政策課でのインターンシップ
- 茨城交通の運転士の方々への取材と似顔絵の採用
- ターゲットの明確化・デザインの工夫

活動報告

1.助成金について
2.インターンシップ
3.リーフレット作成

1. 助成金について

茨城県公共交通活性化会議事務局

地域公共交通利用促進活動助成事業

→8万円獲得

→リーフレット印刷代へ

2. インターンシップ

水戸市役所交通政策課にて5日間

・仕事内容

－小学生に向けた講習会の補助

－水戸市都市交通戦略会議の議事録作成　など

・市役所の皆様とプロジェクトの構想立て

3.リーフレット作成

◆発案

運転士の皆様を利用者である私たちが
身近に感じられたら良いのではないか。

→運転士さんのおすすめスポットや趣味の紹介

◆ターゲット

水戸市の10代、20代の女性

◆デザイン

落ち着きのある、おしゃれな雰囲気

3.リーフレット作成　流れ

9月　運転士の方々への取材

↓

おすすめスポットへ掲載許可取り

↓

11月上旬　デザイン・内容の確認・修正

↓

11月中旬　文化祭でのプリテスト

3.リーフレット作成

9月　運転士の方々へ取材

運転士の方々…稲見孝一様、梶間武様、志々木悟様、
高橋淳様、山田拓海様
（計5人茨城交通様が選出）

取材内容　…趣味、休日の過ごし方、
水戸のおすすめスポット

3.リーフレット作成

10月　おすすめスポット5カ所へ掲載の許可取り

●カフェ「MILE　STONE」

●ホルモンラーメン「玄海」

●喫茶店「チャペル」

●庭園「保和苑」

●和菓子屋「伊勢屋」

全5カ所

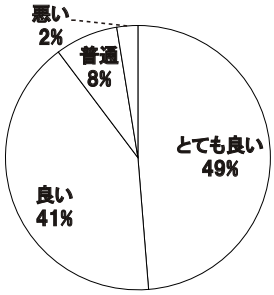
3.リーフレット作成

11月上旬
リーフレットデザイン、内容の確認・修正
（茨城交通の皆様、水戸市役所交通政策課の皆様）

11月17日
11月18日
文化祭にてプリテスト
→来場者にアンケートを実施
→意見をもとにデザイン、内容を修正

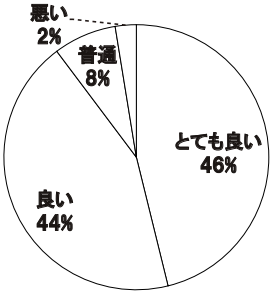
プリテストの結果

①デザインの評価



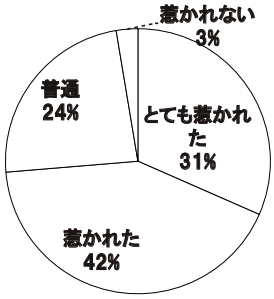
プリテストの結果

②内容の評価



プリテストの結果

③運転士の方々や茨城交通のバス、水戸のお店などに惹かれたか。



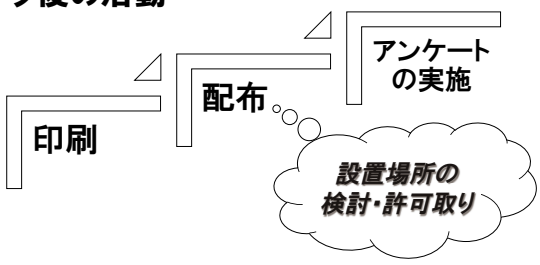
茨苑祭でいただいた意見

○良い点
・運転士さんの顔が見えるのは親しみが持てる
・イラストや色合いがおしゃれ
・色合いがソフトで心地良い

×改善点
・リーフレットの用紙の大きさが小さい
・運転士さんの一言的なものがあったらよいのでは
・運転士さんの苗字と名前の間にスペースが欲しい

etc…

今後の活動



成果の検証方法

●リーフレットを読んでいただいた方へ、アンケートの実施

→各項目で

“はい”の回答が7割を超えれば成功

私たち4人が学んだこと

チームワーク
の大切さ

私たち4人が学んだこと

●自分の係以外の仕事もこなす

●複数人で一つの課題に取り組むということ

●メンバー全員の意見を取り入れたリーフレットの完成

お世話になっている方々

●茨城交通株式会社の皆様

●水戸市役所交通政策課の皆様

●おすすめスポット掲載を許可していただいた皆様

●茨城県公共交通活性化会議事務局の皆様

ご清聴ありがとうございました

プロジェクト演習活動報告会

つなげよう！ひろげよう！
ボランティアの輪

こみフェスチーム

❶

目次

▶メンバー紹介
▶こみっとフェスティバルとは
▶活動内容・目的
▶目標
▶行った活動
▶今後の展望

❷

こみフェスチーム

現代社会学科　２年
庄司果織　田岡真美子
小松晴夏　関森ちあき　大塚萌

❸

こみっとフェスティバル

水戸市内を中心に活動するＮＰＯやボランティア団体などが集まり、活動の発表や展示，相談や体験ができるイベント

❹

第7回
こみっとフェスティバル
2019年
2月16日（土）
atイオンモール
水戸内原店

❺

活動内容

- 主な活動　宣伝
- 当日はブース間の中継スタッフ

❻

活動の目的

活動を通して自分たちがボランティアの良さを知る
⇒若者たちに魅力を伝え、広めていく

❼

目標

♦前回は学生団体（高校生）１団体のみ
→イベントに参加する学生団体を5団体に増やす

♦当日は基本スタッフのみ
→ボランティアスタッフを5人以上確保する

❽

行った活動

♦こみっとフェスティバル実行委員会への参加
♦宣伝のためのラジオ収録
♦市民活動への参加
(にこにこ食堂・あっとまま・水戸こどもの劇場)
♦フリーペーパーの作成
♦茨苑祭(学園祭)での展示

❾

こみっとフェスティバル実行委員会への参加

♦月一回行われる、こみっとフェスティバル実行委員会へ参加
♦実行委員の方の意見を知ることができた
⇒学生という目線から意見を出すことも
(Ex.スタンプラリーの改定案)

❿

市民活動への参加①

◆ にこにこ食堂（参加日：8月18日）
水戸市初の子ども食堂！
食事を通して繋がる「地域の居場所」となっている。

⇒当日は、子供たちの宿題のお手伝いをした(夏休みスペシャル)
活動がボランティアの方々の生きがいになって
いることを実感した。一方で、活動が貧困解消に繋がっているのか？
というもどかしさも感じているようだった。

⓫

市民活動への参加②

◆ あっとまま（参加日：9月10日）
妊娠中や育児中のママを支援するボランティア

団体を見学！
⇒ママたちの憩いの場となっている
大きな存在

⓬

市民活動への参加③

♦放課後学級（参加日：10月19日）
NPO法人水戸こどもの劇場様の活動の一つ。
茨城大学附属小学校に赴き、
⇒小学校低学年の子供たちと楽しい時間を
過ごした
わんぱくな子どもたちを優しく、時には厳しく、接していたのが印象的

13

フリーペーパーの作成

♦参加させていただいた活動をまとめたフリーペーパーを作成
♦茨苑祭で配布

14

宣伝のためラジオ収録

♦NPO法人水戸こどもの劇場、大内様のご協力によりラジオ収録（8月22日）を行い、FMぱるるん
「HOT！ほっと！スクウェア」にて放送
♦出演団体募集の宣伝
♦茨苑祭についての取材、宣伝

15

今後の展望

♦フリーペーパー第２弾作成
⇒他のボランティア活動に参加し、
どのような活動をしているのか、伝える
♦当日の模様をTwitterLIVEで配信！
⇒若者世代にもボランティア活動を知ってもらい、
興味を持ってもらうきっかけにする

16

お世話になった方々

水戸市役所市民生活課：橋崎真哉様、宮窪千恵様、その他
職員の方々
にこにこ食堂：岡部佳代子様
あっとまま：古山みのり様
水戸こどもの劇場：大内清志様

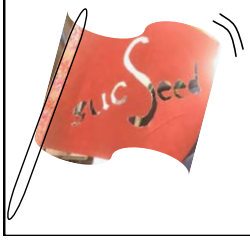
17

ご清聴ありがとうございました！

18

プロジェクト演習活動報告会

ワインツーリズムで まちを元気に



sucSeed

リーダー	小野瀬　篤美
副リーダー	重冨　優希
書記	鈴木　葵
会計	青木　玲奈
	廣木　彩乃
渉外	岸　朱里

1

本日の報告内容

- ▶１．sucSeedとは
- ▶２．チームの目的
- ▶３．ツアーについて
- ▶４．学んだこと

2

１．sucSeedとは

▶Domaine MITO株式会社様からご提案いただいたプロジェクト課題
「**ワインツーリズムでまちを元気に**」
を選択した学生6人で結成したチーム

▶Domaine MITO（株）の一企画として、ツアーをプロデュース

4

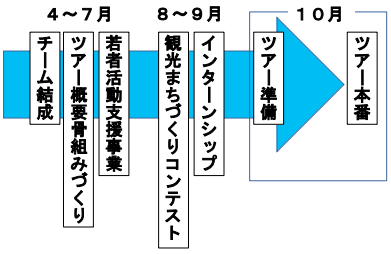
２．チームの目的

▶ワインを通じて、水戸に県外からの人を呼び込み、水戸を訪れてくれるリピーターを獲得

sucSeed的地域活性化

6

３．ツアーについて



8

３．ツアーについて

▶インターンシップ

８/２６	麻布十番まつり出店手伝い
９/７・８	きたかんマルシェ
９/１５	よいとこプラン
９/１９・２７	ワイン座学
９/３０	アペリティフ水戸

9

３．ツアーについて

ツアー内容吟味　ツアー会社の決定

集客・パンフレット作り

本番準備

結成してからツアー本番まで

ツアー本番

11

人を呼び込むためには

既存の魅力
歴史・鮟鱇

＋

新たな魅力
ワイン

➡

ワイン
ツーリズム

12

３．ツアーについて

ワイン水戸

「和in水戸」

日時：１０/１４（土）
場所：東京⇔水戸
費用：６，４８０円
時間：８：３０～１９：００

13

３．ツアーについて

▶ツアーの工程
- ●ワインの醸造体験
- ●あんこう鍋
- ●弘道館
- ●偕楽園

（好文亭見学、ワインテイスティング）

水戸市でしか味わえない
体験をしてもらいたい

17

３．ツアーについて

▶sucSeedの活動採点

７０ 点

22

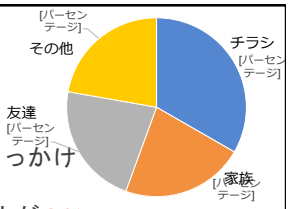
３．ツアーについて

７０点の根拠

▶反省点
- ・本来の目的を見失いがち
- ・長期的な見通しが不透明
- ・報連相が不十分
- ・検証方法が不明確
- ・SNSを十分に活用できなかった

23

３．ツアーについて



SNSの反響
　このツアーを知ったきっかけ

SNSを見て参加を決めた人が**０％**
　→SNSを有効活用出来なかった

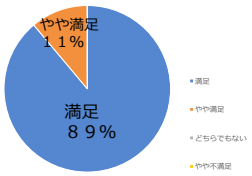
24

３．ツアーについて

▶よかった点
　・メンバー間での信頼関係の構築
　・参加者の満足度が高かった
　◎水戸の魅力がしっかり伝えられた

25

３．ツアーについて



事後アンケートの結果
　ツアー全体の満足度→
　　ほぼ100％

ほか場所、料理、スタッフの対応、
値段の満足度も満足度９割越え

26

４．学んだこと

①社会人疑似体験
　　メール、名刺
②物事の進め方
　　計画性、状況把握、優先順位のつけ方
③情報共有

28

お世話になった方々

茨城県庁：大窪浩一郎様　大塚弘子様
　　掛札巧様
JA水戸：大澤政道様　中﨑直美様
山翠：高野健治様
茨城放送：首藤美穂様　菊池真衣様
ツアーに参加してくださった皆様
sucSeedを応援してくださった皆様

29

30

プロジェクト演習　活動報告会　　平成30年12月15日

とみ咲クチーム
1年を通しての活動報告

リーダー　羽田野里菜
副リーダー　永田典子
書記　大貫史織　野平知里
会計　戸谷実花子

1

目次

1. 福島県双葉郡富岡町の説明
2. チームの目的
3. 補助金について
4. これまでの活動報告
5. プロジェクト演習を通しての学び
6. 今後の展望
7. お世話になった方々へ

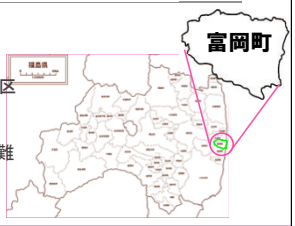
2

1. 福島県双葉郡富岡町の説明

- 福島県の浜通りに位置
- 震災後（平成23年3月11日）、福島第一原発の事故の影響で警戒区域に

→町民は47都道府県又は国外へ避難

- 平成29年4月1日、帰還困難区域を除く地域で避難指示解除



3

1. 福島県双葉郡富岡町の説明

- 富岡町の人口（平成30年12月1日現在、届出居住者数）

町内居住者　826人／世帯数　586

町外避難者数　12，240人／世帯数　6，036

参考：「県内外の避難・居住先別人数」福島県富岡町ホームページ

4

富岡町の皆様に頂いたお題

図書館を有する複合施設を使って「こころの復興」につなげる
複合施設としてのハードを活かしたソフト事業の企画立案・運営

（1）施設の複合性を活かす図書館づくり
（2）大学生の「あったらいいな」図書館機能
（3）読む・借りるだけではない「集う」
図書館コーディネート　←今回、注目！

5

実際に足を運んで・・・

被災地である福島県双葉郡富岡町の現状を知る

→被災地の現状を学び、
こころの復興の一助になりたい

6

2. チームの目的

- 今後も継続する企画を考え、実行する
- 地域の現状を学び、県外に住んでいる私たちが、受け入れられた上で地域に貢献する

⇒富岡町のコミュニティの再形成を目指す

7

3. 補助金について

福島県の補助金申請
「福島県県内避難者・帰還者心の復興事業補助金」

総額115万円で採択

交通費・消耗品費・印刷製本費等に使用

8

4. これまでの活動報告

1, 5月より、富岡町へ訪問し連携先との会議を行う（計14回訪問）

2, インターンシップ
8月21／22日（2人）
9月19／20／21日（3人）

月	回数
5月	1回
6月	1回
7月	2回
8月	3回（宿泊1回）
9月	2回
10月	3回
11月	2回（宿泊1回）

9

報道実績

6月27日　河北新報新聞に掲載
8月26日　福島民友新聞に掲載
9月24日　福島中央テレビにて放映
9月28日　福島民報新聞に掲載
9月29日　茨城放送に出演
11月24日　福島民報新聞に掲載

福島・富岡
町民集う図書館へ
茨城大生知恵絞る
蔵書構成や行事提案

出典：河北新報新聞(6月27日P.30)

9月3日　本学HPの「茨城大学コミットメント」のページに掲載

10

主な活動一覧

日程	主な活動
8月26日（日）	謎解きスタンプラリー
11月25日（日）	「学びの森」文芸祭
8月から計6回	落語体験教室
7月～11月にかけて	常設展示 住民の方の作品展示
11月17日・18日	茨苑祭（学園祭）

11

（1）謎解きスタンプラリー

目的　イベントを通して文化交流センター「学びの森」の機能を知ってもらう

対象　富岡町やその周辺地域に住む方
約60名の方が参加

日時　8月26日（日）12時～16時30分
場所　文化交流センター「学びの森」

12

成果の検証

アンケートを実施
対象　謎解きスタンプラリーに参加してくださった方
目標　5段階評価中4以上が7割

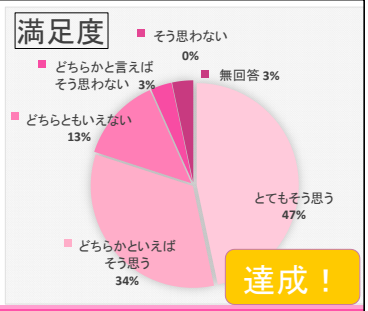
13

自由記述

・施設全体が見て廻れて自然とその魅力が感じられてよかった

・改めて学びの森の施設が分かった

・もっと町民に参加してほしかった



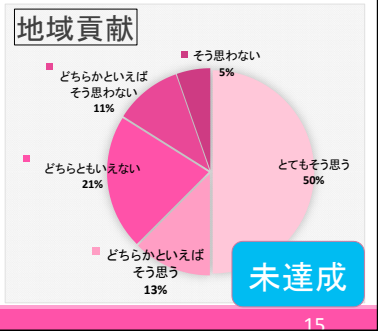
14

自由記述

・富岡に人が集うきっかけになると思う

・地域の拠点になると思う

・若い人と話すのは久しぶりで。どんどん町に来てほしい



15

（2）文芸祭

目的　交流の場、コミュニケーションの場の提供
対象　富岡町やその周辺地域に住む方
　　約60名の方が参加

日時：11月25日（日）12：30～16：40
場所：文化交流センター「学びの森」大ホール
　　＊同館内、第1会議室で作品展示を同時開催

16

文芸祭（大ホール）茨城
大の学生サークルや茨城大講師の出演 富岡町役場や、図書館員さんの皆様 茨城大学生のボランティアの協力

作品展示（第1会議室）町民や近隣住民の方々から寄せられた作品の展示

17

成果の検証

対象　文芸祭にお越しくださった方
目標　5段階評価中4以上が7割

18

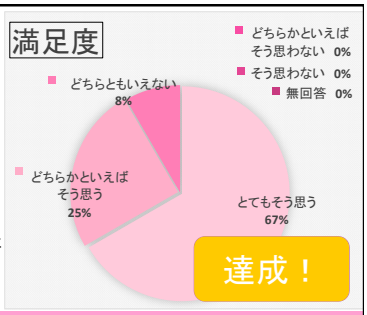
自由記述

・色々な人と関われた

・元気をもらいました

・楽しみが出来た

・もっと宣伝してほしかった



達成！

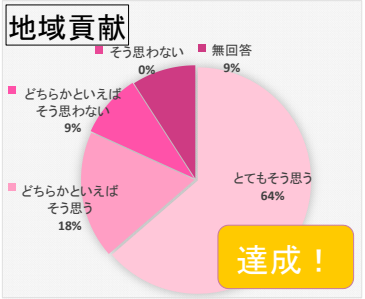
19

自由記述

・復興の力になると思います

・地域のコミュニティをつなぐような内容だったと思います

・続けることが大事だと思う



達成！

20

5. プロジェクト演習を通しての学び

- 計画をたてること、また計画を実行することの重要性
- 計画実行のための想像力
- チームワークの大切さ
- 広報活動の重要性

21

6. 今後の展望

- 2月まで、月に1回の富岡町訪問の継続
  →パネル製作や作品展示
- 富岡町のイベントへの参加
- 茨城県内で、富岡町の現状を話す機会の創出

22

7. お世話になった方々へ

三瓶秀文様・門馬健様・東山恵美様をはじめとする 富岡町役場の皆様
及び とみ咲クチームにご協力いただいた皆様

23

参考・引用／SNSのご紹介

「県内外の避難・居住先別人数」福島県富岡町ホームページ
http://www.tomioka-town.jp/2222.html
（平成30年12月7日アクセス）

Facebook

Twitter @TOmiSAKU2018

24

里川カボチャを通して学んでほしい
～主体的・対話的・深い学び～

茨城県立水戸農業高等学校
教諭　新堀俊博

1

９月から１１月まで不在

・企業研修で3か月間不在

・これまでの生徒の活動を振り返り
新しい発見・提案を考えてもらいたい

・リクエストに応えられる柔軟な発想をしてもらいたい

・継続的で，発展的な活動にしたい

2

里川カボチャを通して学んでほしい

～主体的・対話的・深い学び～

3

色々とご迷惑やご苦労をおかけしました

この場で発表をさせていただけることを
改めて感謝申し上げます

引き続き生徒の発表をよろしくお願いいたします

4

里川かぼちゃの魅力を伝えるために
～私たちのチャレンジ　Vor. 2～

茨城県立水戸農業高等学校　食品化学科
2年：高土　夏花・大津　ひなた・野平　祐美
鴨志田　優月・飯田　幸太

1

1. はじめに

このプロジェクトを始めたきっかけ
→ 先輩方が過去に行っていたこの活動に興味を持ったため

昨年の活動
→ 昨年の茨苑祭にて里川カボチャを使ったパイの提供

2

2. 目標

最終目標：里川カボチャを知ってもらい、
常陸太田市里美地区のPRにつなげる

今回の目標：里川カボチャの特徴を生かしたスウィーツ等の
レシピを考案し、発展につなげる

3

3. 経過スケジュール

月	内容
4月～5月	レシピ考案・試作品作り
6月 1日	茨城大学　さとみ・あいとの打ち合わせ①
7月25日	茨城大学　さとみ・あいとの打ち合わせ②、作成レシピの決定
7月27日	試作品作り（スコーン・カップケーキ）①
8月 8日	試作品作り②
8月17日	試作品作り③
8月24日	茨城大学　さとみ・あいとの打ち合わせ③
8月27日	試作品作り④
8月31日	茨城大学　さとみ・あいとの打ち合わせ④、最終決定（スコーン）
9月 7日	試作品作り⑤

4

4. レシピ

スコーン（材料）
薄力粉　500g　　砂糖40g　　卵1個（60g）
牛乳　200ml　　B. P　18g　　里川カボチャペースト　125g

5

4. レシピ

作り方
① オーブンを予熱（180℃）
② 粉類をふるいにかけ、ボールに入れる
③ ペーストに牛乳半量と卵を入れて混ぜる
④ ②のボールに③を入れて練る
残りの牛乳を入れながらやわらかさを調節する
⑤ 1時間冷蔵庫に寝かせる
⑥ 麺棒で4回3つ折りにする
⑦ 棒状（厚さ1cm×縦16cm×横1. 5cm）で切る
⑧ オーブンで約20分焼く

6

4. レシピ

スコーンの特徴
食べた時のかるさを追求し、
　強力粉などを使用しない薄力粉のみのスコーンに仕上げた

食べやすさを求め、棒状に仕上げた

里川カボチャの甘さを引き立たせるために、
グラニュー糖を少なめに仕上げた

7

5. 結果

レシピの完成まではできたものの
茨苑祭での販売までにいたらなかった

原因→細菌検査などの安全面が十分に考慮されていなかった
　また、両者の情報の食い違いなど
情報伝達が正確でなかったため

8

6. 今後の課題

基礎的なことを改めて踏まえた上で、プロジェクトに取り組む

イベントなどアピールできる場を探し、積極的に参加していく

引き続きレシピ作成に取り組み、
さらに里川カボチャの魅力を伝えられるような加工品を考案していく

9

7. 感想・考察

今回のスコーンのレシピでは、里川カボチャの甘さと色に重点を置いたため、風味を生かすところまで、たどりつかなかった
次は、すべてのよさを生かせるようなレシピを考案していきたい

茨苑祭での販売ができなかったのが非常に残念であるため、
今回の失敗を今後の活動に生かしたいと思う

10

ご清聴ありがとうございました。

11

プロジェクト演習　活動報告会　　2018年12月15日

プロジェクト演習にとっての

広報のターゲット3種

プロジェクト演習担当教員　鈴木敦
Atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

プロジェクト演習にとっての

広報のターゲット3種

①履修生予備軍とその関係者

②域学/産学連携授業への協力者

③社会一般

2

①履修生予備軍とその関係者

・1年次生
・高校生＋進路指導教諭＋保護者

→履修者数の維持・拡大による
　プロジェクト演習の安定的な継続

3

②域学/産学連携授業への協力者

PBL授業担当教員
教育系の研究者

・「AL」「PBL」「地域連携」「高大連携」「ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ」「社会人基礎力」等のｷｰﾜｰﾄﾞに反応する層

→協力者の維持・拡大と斯界での知名度の向上

4

③社会一般

・各ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの目的に内包された広報
・広報の実践的学習

→「広報効果そのもの」ではなく、
「学生が、広報すること自体を通じて学ぶこと」

5

ご清聴ありがとうございました

プロジェクト演習担当教員　鈴木敦
Atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

6

プロジェクト演習関係 HP・SNS

１：公式 HP・FB
人文社会科学部地域志向教育プログラム HP
http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/

プロジェクト演習 HP
http://pbl.hum.ibaraki.ac.jp/project.html

プロジェクト演習 FB
https://www.facebook.com/IUChiikipg/

２：学生チーム独自の SNS
さとみ・あいチーム
FB：https://www.facebook.com/satomicafe/
Twitter：https://twitter.com/satomi_ai_

Twitter　Facebook

こみフェスチーム
Twitter：https://mobile.twitter.com/commitow
Instagram：https://www.instagram.com/commito_wa/

Twitter　Instagram

sucSeed チーム
Twitter：https://twitter.com/sucSeed2018

とみ咲クチーム
FB：https://www.facebook.com/groups/207383209898065/about/
Twitter：https://twitter.com/TOmiSAKU2018?lang=ja

Twitter @TOmiSAKU2018　Facebook

プロジェクト演習　活動報告会　　2018年12月15日

ミニ・トークセッション

～大学の情報発信の変化と～

教育学部教員　岩佐　淳一

目次

Ⅰ．大学の情報発信とは？
なぜ大学は情報発信しなければならないのか？
Ⅱ.（大学を巡る）情報環境の変容
Ⅲ.授業、教育活動の情報発信
Ⅳ.地域から見た地方大学が行うべき情報面での課題

2

Ⅰ．大学の情報発信とは？ なぜ大学は情報発信しなければならないのか？

1. 大学教育に関する法的説明責任

（1）「学校教育法109条、113条」「大学設置基準第2条の2」

①人材養成の目的

②授業の方法・内容・年間授業計画・成績評価基準等

③自己点検・自己評価

（2）国立大学法人法による中期計画、財務諸表、事業報告書等の公表

3

2. 大学の社会への説明責任、広報、便宜供与

（1）研究活動

（2）教育活動

（3）学生生活

（4）受験生・在学生への便宜供与

（5）その他

4

3. 地域社会、企業など外部への情報提供、連携協力

5

4. 大学のブランディング戦略

（1）「象牙の塔」からの脱却→大学への信頼の社会的醸成

（2）大学価値の伝達、明確化

6

5. 活動のジャーナル的、アーカイブとしての機能

7

Ⅱ.(大学を巡る)情報環境の変容

(1)情報媒体の多様化　従来のマス・メディア型情報媒体＋インターネット
(2)ブログやSNSによる情報発信の量的拡大、発信者の多様化
(3)情報内容の多様化
(4)情報発信の易化
→大学を巡る多様な情報が社会的に流通する現状

8

情報環境の変化にともなう大学情報の変化

多様化・多元化した大学情報→公式サイトのみならず、教員や学生等が発信する情報の増加
(1)教員、学生等が発信する情報(研究や教育、授業)をどのように把握していくか
(2)多様な情報の総合化、見える化→どのように可視化するか→広報体制の見直し

9

Ⅲ.授業、教育活動の情報発信

情報発信が大学の学びと連動、情報発信を学びに内包することの意義

(1)大学の見える化の一助になる→受験生への便宜供与

10

(2)内から見ると在学生の「気づき」「インスパイアー」になる
外から見ると学生目線を通じた地域の気づきにつながる

11

(3)広義の人間教育になる
授業などの成果を情報発信する＝①情報発信技術、②メディア選択能力、③情報収集力・交渉力・コミュニケーション力・交渉力・マネージメント力等総合的な能力等が開発される
④情報発信することで内外から評価を受ける→評価を受けること自体が学びとなる、⑤評価を授業、教育活動をフィードバックできる
→教育活動と大学の情報創造がセットになることの効用

12

今年度のプロジェクト演習での気づき

情報発信という観点からの学内の教育体制をもう一度制度設計してみる必要があるのではないか

13

Ⅳ.地方大学の情報面からの課題

(1)教育研究の成果の還元

(2)地域問題・課題解決への寄与

↓

(3)地域的人材の養成

14

情報発信という視点から見た茨城大学憲章

市民や社会から信頼される大学であるために、大学の情報を広く発信し、大学への期待や要請の把握に努めます。市民、自治体、教育界、高等教育研究機関、経済産業界等と連携した教育と研究を推進します。教育研究の成果を積極的に社会に還元し、地域の教育と文化の向上、環境保全、産業振興、社会の発展に寄与します。教育と研究の成果を広く国際社会に向けて発信するとともに、学生や教職員の国際的な交流と共同研究を行い、国際水準の教育と学術研究の推進及びその成果の共有に努めます。アジア地域を中心とした国際社会から信頼される学術と文化の交流拠点となることを目指します。

15

地域から見た地方大学が行うべき情報面での課題

(4)地域の問題・課題についての情報発信、可視化
(どんな問題や課題が地域に存在し、それがどのような布置連関をなしているか)

→地方大学は本当に地域のことを分かっているか？
地域社会に信頼されているか？

16

地方大学の情報面での役割
大学にアクセスすると･･･

(1)地域の問題・課題が整理されている
(2)問題・課題を一般化したり、比較する視点が提供されている
(3)地域の問題・課題解決を助けてくれそうな大学の専門家が見つけやすい

17

大学として行うべき情報媒体の整備

(1)地域に関わる情報の総合サイトへ
(2)地域の団体や人々が気軽にアクセスでき、なおかつ「使える」地域情報ポータルへ

18

地域情報の結節点としての大学へ

19

では具体的にはどのように？

山崎様へお願いします

20

ご清聴ありがとうございました

21

茨城大学広報室専門職　山崎一希

1

岩佐先生のお話を受けて

「地域の問題・課題についての情報発信、可視化」

大学の広報・ブランディングの核になる

2

「大学」そのものの価値向上

“大学人はリアルな課題を先進的にキャッチしており、なおかつ専門性と教育機能を活かして解決を図っている”

･･･ということをいかに可視化するか

3

2つのアプローチ

1. **ジャーナルとしての大学広報媒体**
   大学の教員が専門的知見から説明し、今後の見通しを示すようなオピニオンを表明する場を、大学の広報媒体で展開する。ブランドジャーナリズム。
2. **学生が地域課題にリアルに触れているプロセスを可視化する**
   地域課題を認識し、プロジェクトに取り組む学生の活動・学修のプロセスを可視化することで、課題の発見・解決を追体験できる。

地域自体の学び＝社会改善を促す

4

プロジェクト演習における「広報」「コミュニケーション」の意味

- 「プロジェクト演習」という授業そのものの広報は優先すべきではない
- 各プロジェクトの目的・ターゲットに応じた広報・コミュニケーションの効果最大化を考えるべき
- Facebook・Twitterが最適な媒体とは限らない。
- コミュニケーション媒体を統一化するのではなく、学生がプロジェクトに応じて適切な媒体を選べるようなサポートをすべき。

5

PESO：メディアの特性

- **P　Paid Media**
- **E　Earned Media**
- **S　Shared Media**
- **O　Owned Media**

6

どんな「媒体」が使える？

7

広報専門職として茨城大学にいるので
遠慮なく何でも聞いてください！

8

プロジェクト演習のHPは意味がないのか？

- 長年試行錯誤しながら取り組んできたPBL実践の貴重なアーカイブとして、十分に価値がある。
- 日本の大学において、「這い回るPBL」「這い回るアクティブラーニング」が今後増えていくかも知れない中、実践～報告の記録がオープンで検証可能になっていることは、教育方法の研究の上でも大切なこと。
- プロジェクト演習としての情報発信は、それで十分なのでは？（授業としてのFacebookページは見直したほうがよい？）
- 優先すべきは、学生の活動の目的そのものに組み込まれているべき「情報発信」を最適化すること。

9